

高尾山山頂から発信！

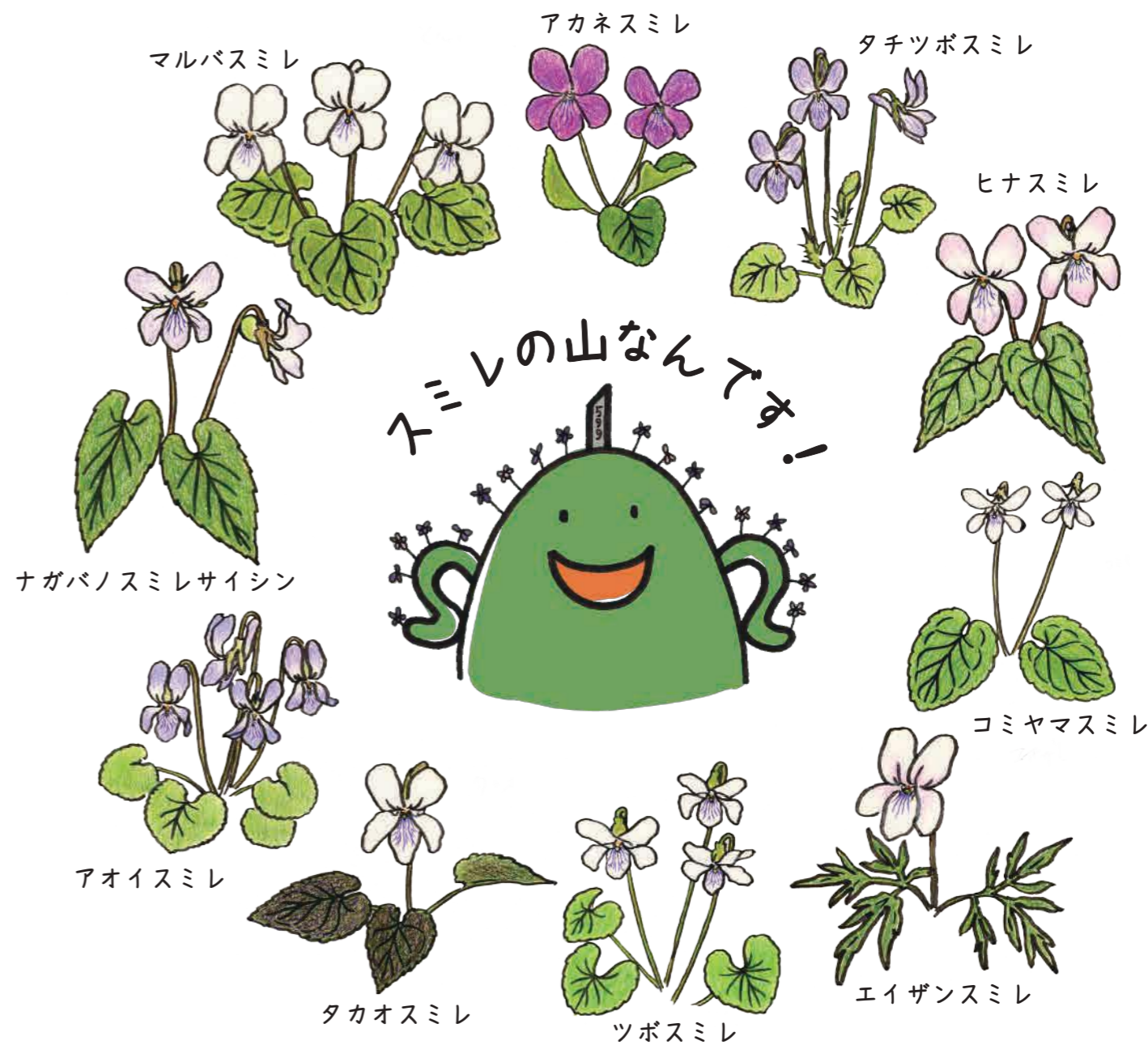
# のぶすま

「のぶすま」とは  
ムササビの古い呼び名です。

vol. 47 季刊  
2017年春号

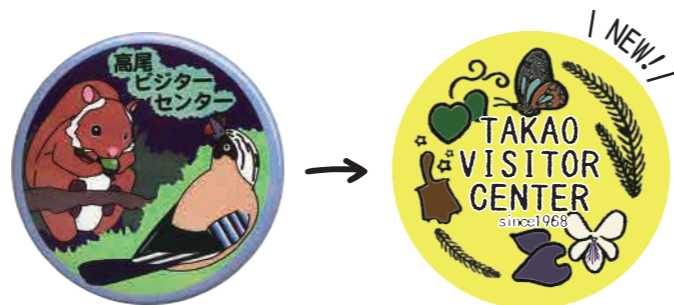
## 高尾山に自生しているスマレは国定公園内に限っても18種。

さらに雑種や花や葉の色変りなどの品種などを加えると、  
40種類以上ものスマレが記録されています。（※新八王子市史参照）



## ガイドウォーク参加賞の 缶バッジデザインがリニューアル！

初めてガイドウォークにご参加いただいた方に、参加賞としてお配りしている缶バッジデザインが、この度リニューアルいたしました！



毎日13:30～より実施しているガイドウォークは、山頂周辺の旬自然をご紹介します、楽しい体験ツアーです。子供から大人まで楽しめる内容となっておりますので、皆さん是非ご参加下さい！

※6号路一方通行規制の期間中は、ガイドウォークが室内で行うトークイベント(レンジャートーク)に変更となります。

## 6号路一方通行規制のお知らせ

【6号路 上り一方通行期間】  
2017年4月29日(土)～5月7日(日)  
午前8時～午後2時

今年もゴールデンウィーク期間中、特に混雑の予想される6号路に限り、上り一方通行規制が行われる予定です。

## 解説員 くしらむ vol.9

### 春告木

日本各地には、春の訪れを告げる魚や植物を「春告魚」や「春告草」と呼んでいる地域があるそうです。例えば春告魚はサワラ、春告草は梅といった具合です。サワラは漢字で書くと、文字通り「魚」へんに「春」ですね。きっとそれぞれの地域で春になると見られるものが、冬が明ける喜びとともにそう呼ばれていたのではないのでしょうか。

高尾山には、僕が勝手に「春告木」と名付けている木があります。5号路と6号路が交わる場所にその木はあり、名前をダンコウバイといいます。花が咲くとまるで、枝に無数の黄色い綿毛がついたように見え、華やかでかわいらしい木です。

ビジターセンターのスタッフは、毎日その木の横を通って山頂へ向かうのですが、冬の間にだんだんと芽が大きくなるのがわかります。いよいよつぼみが大きくなると、寒さが苦手な僕はいつそ春が待ち遠しくなりますが、そんな気持ちとは裏腹に、膨らんだつぼみからはなかなか花びらが見えません。

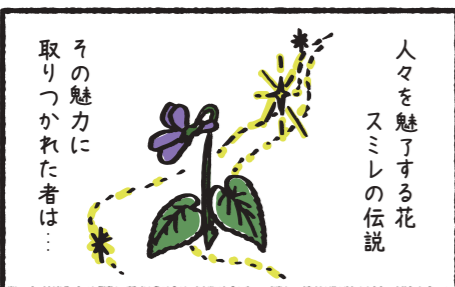
しかし、一輪開いたかと思うと次々に開花し始め、まるで季節が移り変わっていく様子が目に見えるかのようです。そして、このダンコウバイの木が満開になると、高尾山に春が来たことを実感するのです。

日に日ににぎわいを増していく春。みなさんにその訪れを伝えてくれるものは何ですか？

〈解説員 村上〉

## たかおさん

「スマレを求めて」の巻



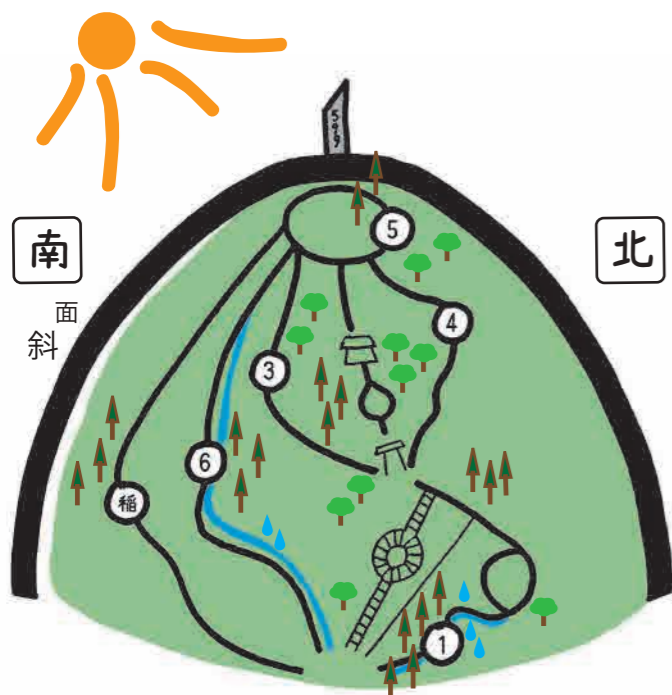
「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。

ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

3月、真っ先に咲き始めるアオイスミレを筆頭にその後5月まで、数多くのスマレが次々に咲き変わっていきます。標高599mのこの小さな山になぜこんなにも多くのスマレが生息しているのでしょうか？その秘密は、出会ったスマレの咲いている場所(生息環境)に注目することでひも解くことができそうです。

# いろいろな環境があるんです

～高尾山にある様々な環境が多く、その生息環境を与えています～



## ※カッコ内の数字は観察できる研究路

- ・タチツボスマイレ：日が射すところならどこでも！（全ての研究路）
- ・アカネスマイレ：尾根すじの草地や日当たりの良いところ（1号路山 頂付近）
- ・ヒナスマイレ：やや日陰の林下／林縁の日が射すところ（1、3、4、5、6、稲）
- ・エイザンスマイレ：日陰の林下／日当たりの良い斜面（3、4、5北、6）
- ・コミヤマスマイレ：沢沿いの湿った暗いところ（1、4、6）
- ・ツボスマイレ：沢沿いの湿ったところ（6）
- ・タカオスマイレ：沢沿いの湿り気のある薄暗い林縁（1）
- ・アオイスミレ：沢沿いのやや湿った林下・林縁（6）
- ・ナガバノスマイレサイシン：やや湿った林下・林縁／やや明るい樹林下（1、3、4、5北、6、稲）
- ・マルバスマイレ：沢沿いの日当たりの良い斜面・半日陰の斜面・林縁（1、3、4、5北、6）

【高尾ビジターセンター調べ（2014年～2016年）】

# 解説員は語る！

～高尾山のスマイレ注目ポイント～



解説員 J・Y



タカオスマイレ

**タカオスマイレ**は高尾山で最初に発見されたことから名付けられたスマイレです。高尾山が多くの研究者に注目されてきた山だからこそ、このスマイレの発見につながったのではないのでしょうか？



解説員 Y・U

**少し**歩くだけで、数種類のスマイレに出会える高尾山は、やっぱり面白いなあ。



解説員 M・U

**高尾山**でスマイレを観察していると、石垣の隙間や木の幹などに根付くたくましいスマイレに出会えます。実はこれ、アリのしわざ。スマイレはアリが好む物質を種にセットすることで、種を遠くまで運んでもらっているんです。

春、高尾山を歩くと本当に多くのスマイレに出会うことができます。それというのは即ち、それだけ多様なスマイレを育む環境がこの山にある、ということです。高尾山の自然はるか昔から護られ、この森にすむ昆虫や自然を愛する研究者を惹きつけてきました。そして今日現在も、登山道の整備や環境保全活動に多くの人々が関わり続けています。そうした人々の行動や想いをも含めて、この山は「スマイレの山」であるのだなあと思うのです。

高尾山でスマイレに出会ったら、その背景にもぜひ注目してみてください。

〈解説員 宇井〉

# 高尾山はいつから昆虫愛好家の聖地だったのか



## 高尾山のれきし

vol.9

多種の昆虫が生息していることで知られる高尾山には、昔から多くの昆虫愛好家が訪れました。“昆虫の宝庫・高尾山”という評判はいつからだったのでしょうか。

昆虫愛好家の聖地として知られる高尾山では、現在までに1000を超える新種が発見されており、その中にはタカオメダカカミキリ、タカオシヤチホコといった高尾山の名を冠した昆虫もいます。戦前から既に昆虫採集の好適地として知られていた高尾山には、著名な人物も多く訪れました。学研まんが「昆虫のひみつ」（私も子どものころ何度も読み返した本です！）のほか、多くの昆虫関係の書籍を手がけてきたことで知られる須田孫七（すだまねしち）さんも高尾山を昆虫採集のフィールドとしてきた一人です。今回、須田さんに直接お話を伺う機会を頂いたとき、とても興味深いエピソードを教えてくださいました。

太平洋戦争に突入しようとしていた昭和16年、須田さんが小学4年のときの話です。昆虫採集に出掛けた高尾山の登山道で、同じく昆虫採集に来ていた中学生とばったり出会います。須田さんと彼は歩きながらしばらく語り合ったそうですが、それが著名な漫画家の故・手塚治虫さんだったというのです。少年時代から自身のペンネームに虫の字を使うほど昆虫好きの手塚さん。彼はどんな昆虫に出会い、何を感じたでしょう。短編

「Zephyrus（ゼフィルス）」の中で自ら描いていた、チョウを追いかける少年の姿が思い出されます。

高尾山が多くの昆虫愛好家に知られるようになった背景としては、1901年（明治34年）の浅川駅（今の高尾駅）の誕生が大きいようです。鉄道で高尾にアクセスできるようになったことは昆虫愛好者が高尾山という昆虫採集地を知るきっかけとなったのでしょうか。その後、昭和2年のケーブルカーの創業や、昆虫関係の雑誌・書籍に紹介されたこともあり、昆虫採集人口は増え続けました。こうして戦前、すでに高尾山は昆虫の宝庫として広く知られるようになったのです。

価値観は時代によっても変わるもので、自然保護の意識が高くなった現在では、昆虫採集に対して冷ややかな目を向ける方も少なくありません。1967年に高尾山周辺が「明治の森高尾国定公園」となった頃から昆虫愛好家は減少していきます。しかし、多くの愛好家たちが情熱をもって昆虫を追いかけた時代があったからこそ、今日、高尾山の自然の価値が広く認められるまでになった、ということもまたひとつの事実と言えましょう。

〈解説員 福世〉

解説員の

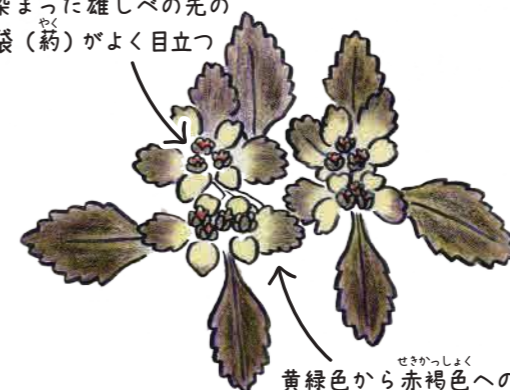
# いちおし

vol.5

## ヨゴレネコノメ

私は君のこと  
キレイだと思おうよ。

咲き始めは、赤く染まった雄しべの先の花粉袋（葯）がよく目立つ



黄緑色から赤褐色への、グラデーションが美しい

変わった名前の由来は、葉の黄緑色の部分が汚れているように見えたためだそうです。名前のインパクトが、よりこの花の美しさを引き立てているようにも思えます。

見られる時期…3月下旬～4月中旬ごろ  
見られる場所…沢沿いなどの湿った場所

〈解説員 梅田〉